

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

国際社会や地域社会において、グローバルな視点で物事を思考し、思考した中から最善のものを判断し、判断したものを発信できる人材を育成する学校
— 国際社会や地域社会において持続可能な開発のための目標（SDGs）2030 アジェンダを実践できる人材の育成 —

2 中期的目標

- ◆ 国際社会・地域社会で活躍する生徒の育成という本校の目標の実現をめざす。
- 1 確かな学力の育成及び希望進路の実現
- (1) 進路につながる学力の育成
- ア 1日7時間授業を行うとともに、知識習得型授業と探究型授業をバランスよく組み合わせる。
- イ 大学や研究機関、企業関係者等との連携・助言による学習、体験型学習を数多く実施することにより、学習に対する関心・意欲を高める。
- (2) 国際・科学高校としての専門性の錬磨
- ア SSH、WWLなど研究指定等を積極的に活用し、知識・技能を活用する力の育成と課題研究の質の向上を図る。
- イ 校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組む。
- (3) 全ての生徒の希望進路の実現
- ア 進路指導における指導実績の蓄積と継承に基づき、生徒一人ひとりの進路希望と学力や意識について把握し、指導・支援する。
- イ 土曜や放課後における補習・講習等を計画的かつ生徒のニーズにあうように実施する。
*国公立大学現役合格率約3割を令和7年度も維持するとともに、京阪神大の現浪合格者数を30名にする。
(R2:32% R3:35% R4:32%) (R2:21名 R3:18名 R4:29名)
- 2 豊かな人間性の涵養
- (1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成
- ア 生徒会活動や学校行事、すべての学校生活を通してリーダーシップや協調性、創造性、豊かな感性を育む。
- イ 部活動、校内外の活動にも積極的・主体的に取り組み、学習と両立させる。
- (2) 人権を尊重する精神の涵養
- ア 卒業生や社会貢献に取り組む人々による講演や交流、特色ある授業を行うことで、多くの価値観に触れて豊かな人権感覚を養う。
- イ 人権講演会や人権ホームルームを充実させ、多様性を尊重する人権教育を推進する。
- ウ 教育相談体制を確立し、組織として支援を必要とする生徒に適切に対応する。
- 3 学校の組織力の向上
- (1) 学習指導方法の工夫改善
- ア 学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、PDCAサイクルによる授業改善を継続する。
- イ 新指導要領の実施、評価方法についての研究、新課程大学入試対応、1人1台端末のさらなる活用など新しい教育課題への取組みを継続する。
- (2) 危機管理力の向上
- ア 感染症対応やインターネットトラブル、いじめ事象など、不測の事態が起きても迅速に対応できる組織的な対応力を強化する。
- (3) 効果的な情報発信
- ア 本校の特長と魅力の先鋭化と情報発信の強化
- (4) 働き方改革の推進
- ア 具体的な取組みを積み重ねるとともに、組織としての方向性の共有を基盤に校務の効率化を図り、教職員が生き生きと働ける職場づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】生徒の「授業に満足できる」は88% [78%] 「難易度や進度は適切」は85% [79%]、保護者は「各教科指導に満足」72% [67%]、教職員は「各教科教材の精選・工夫、指導方法改善を行っている」は95% [88%]であった。生徒の「先生に質問しやすい」83% [76%] 「努力を認めてくれる」87% [79%]。今年度は授業研究会による授業力向上の取組みに加え、生徒の「1人1台端末を効果的に活用している」92% [77%]、教職員の「授業などでのICT機器活用」97% [98%]とあるように、リーディングGIGAハイスクール研究指定校としてICT活用の強化を図った。今後も生徒・保護者の満足につながる授業改善を行っていく。</p> <p>【進路指導】生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」92% [85%]、保護者の「進路について適切な指導を行っている」79% [72%]、教職員の「進路選択に向けてきめ細かい情報提供」は93% [88%]であった。次年度も、さらなる情報提供、進路相談・懇談の充実にも努め、生徒・保護者の進路希望を叶えるよう努めていく。</p> <p>【生徒指導】保護者の「生徒指導の方針に共感できる」は83% [76%]、生徒の「先生の指導には納得できる」は70% [58%]、教職員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は71% [49%]と上昇した。いじめへの対応の肯定的評価は生徒88% [80%] 保護者86% [88%] 教職員97% [88%]と依然として高い。また、教員の「教育相談体制の整備」が85% [73%]、生徒も「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」79% [72%]と上昇しており、次年度以降もさらに生徒の声を受け止め、主体性を育てる生徒指導を行っていく。</p> <p>【学校運営】今年度は海外修学旅行を再開し、国際文化科生徒の「国際性を養う機会が多い」は92% [85%]、総合科学科生徒の「科学への興味を高める機会が多い」も93% [88%]、保護者の「専門高校としての深い知識・技能について学ばせている」は92% [88%]と、専門性の高い取組みが評価された。保護者の「千里高校は魅力的な学校」92% [86%]、生徒の「千里高校に入学してよかった」86% [73%]、「学校へ行くのが楽しい」87% [84%]など、自己診断全体にわたり学校評価は年々上昇している。今後も本校の特長的な活動を継続していく。</p>	<p>第1回（6/23）</p> <p>➢ 54期生進路結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者数が増加していることは素晴らしい。進路指導方針の全体共有と指導のノウハウの継承を続けてほしい。 ➢ 各種事業（SSH、三菱みらい育成、リーディングGIGA、国際交流） ・SSH事業では、指導体制の充実が望まれる。卒業生と現役生の交流はとてよい。教科間連携も進めてほしい。 <p>第2回（10/25）</p> <p>➢ 教育課程の改定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科情報の選択設定は必要な改定。今後も大学の情報や選択者の状況に合わせて検討してほしい。 ➢ 各種事業（SSH、三菱みらい育成、リーディングGIGA、国際交流） ・素晴らしい取組みが多い。好事例を発信してほしい。 ➢ 学校教育自己診断アンケート ・業務の効率化のためにもICTを活用してはどうか。 ➢ スクールポリシーの策定 ・グラデュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの各項目のつながりをより明確にしたほうが、学校のねらいがはっきりしてよい。 <p>第3回（2/28）</p> <p>➢ リーディングGIGAハイスクール事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの利活用が進んでいて、授業公開もされ意欲的である。 ➢ 自己診断アンケート結果と分析から ・全体に大きく上昇しており評価できる。また志願者数も増加していて期待できる。私学志向が強まっている中、“教育内容で私学に勝つ”勢いで頑張っていたきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び希望進路の実現	(1) 進路につながる学力の育成	(1)	(1)	
	ア 知識習得型授業と探究型授業のバランス	ア・7時間授業により授業内容を充実させる。	ア・「授業で力をつけることができている」80% [78%] ・「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」80%以上を維持 [86%]	ア・生徒の授業への満足度は88%と上昇、「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」も96%の肯定率であった。3観点のバランスの取れた授業の充実をさらに図りたい。(◎)
	イ 大学等との連携・助言による学習、体験型学習の実施	イ・外部連携等により指導助言を受けたり、体験型学習を実施したりすることで、学習意欲を喚起したり、将来の生き方について考えたりさせる。	イ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」80%以上を維持 [85%]	イ・「卒業生と語る会」のほか、大学生・大学院生による課題研究指導や研究所見学など、多様なキャリア教育につながる機会を作ることができた。「将来の進路や生き方について考える機会がある」は92%。(◎)
	(2) 国際・科学高校としての専門性の錬磨	(2)	(2)	
	ア SSH、WWLによる知識・技能を活用する力と課題研究の質の向上	ア・課題研究（「探究」「科学探究」）を積極的に実施し、関係組織と連携し、専門分野における探究力を高める。 ・SSH及びSGH中間発表時等における両学科間の交流を図る。 ・生徒の様々な形態のプレゼンテーションを実施する。 ・研究指定校等、取組みの先進的な学校を視察するなど研究に努め、本校の実践に還元する。	ア・「探究や科学探究の授業は知的好奇心を高める」70%以上 [72%] ・中間発表会等で学科を超えた交流及び合同の活動を実施する。 ・校外プレゼンテーション参加数 80人以上 [81人] ・教員による先進校視察や研修の受講を計画的に進める。 延べ20名 [15名]	ア・「探究や科学探究の授業は知的好奇心を高める」は83%と上昇、中間発表会で学科・学年の枠を超えての見学を可能としたり、ボードに両学科全チームの課題研究の進捗を掲示して“見える化”したりするなど、交流につながる工夫を行った。 ・校外でのプレゼンテーション参加者数は117名(◎) ・教員の先進校視察・校外研修受講者数は18名(△)
	イ 校内外研修、国際教育、国際交流の取組み	イ・校内外での探究・科学探究に係る研修の実施 ・オンラインを含む国際交流や校内外における語学研修・国際交流の機会を設ける。	イ・語学研修・国際交流の機会、科学系の研修に参加または実施する。5回以上 [6回] ・「千里高校は国際性を養う機会が多い」国際文化科の生徒80%以上 [85%]「千里高校は科学への興味を高める機会が多い」総合科学科の生徒80%以上[88%]	イ・2年生全員参加の海外研修を再開し、「オーストラリア研修旅行」を実施したほか、国内外の語学研修・科学研修、校内研修は13回実施（大分、台湾、白浜、高知、フランス）、オンラインでの国際交流も韓国、台湾を継続して実施した。結果、「国際性を養う機会が多い（国際文化科）」92%、「科学への高める機会が多い（総合科学科）」93%(◎)
	(3) 希望進路の実現	(3)	(3)	
	ア 進路指導のノウハウの継承による進路指導支援	ア・3年間を見通した総合的指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）、独自資料を活用し、指導・支援する。	ア・国公立大学合格者数現役約30%を維持[32%] ・「進路についての情報を適切な時期に知らせてくれる」80%以上 [81%]	ア・蓄積したノウハウと校内資料等を継承・活用し、計画的な進路指導を行った。国公立大学現役合格者3月末時点で53人（19.9%）(△)生徒の「進路についての情報を適切な時期に知らせてくれる」86%(◎)
	イ 補習・講習等の充実	イ・補習・講習等について効果的で生徒の要望にあうように立案計画実施する。	イ・「希望する進路を実現するための講習等が充実している」70%以上 [73%]	イ・「講習や補講が充実している」と答えた生徒は84%と大幅に増加した。生徒の部活動参加の状況に合わせて、可能な限り平日の進学講習を増やしたためと思われる。(◎)
	2 豊かな人間性の涵養	(1) 知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成	(1)	(1)
ア 学校行事等によるリーダーシップ、協調性、創造性、感性の育成		ア・生徒会活動、学校行事が活発に行われるよう工夫する。	ア・「生徒会活動は活発である」70%以上を維持 [71%]「体育祭や文化祭は楽しく行えるように工夫されている」80%以上 [85%] ・「千里高校に入学してよかった」70%以上[73%]	ア・コロナ5類移行後の行事について、慎重かつ生徒の活動に自由度を持たせられるよう工夫を重ねて実施した結果、「生徒会活動は活発」82%、「体育祭や文化祭は工夫されている」91%と生徒の満足度は大きく上昇した。(◎) ・入学しての満足度も86%に上昇。(◎)
イ 部活動、校内外の活動と学習の両立		イ・部活動等を充実させるとともに、課題の量の調整を図り学習との両立を図る。	イ・「部活動は活発である」90%以上を維持 [93%] ・「家庭学習する時間を確保できている」70%以上[65%]	イ・「部活動は活発である」は96%であるが、「家庭学習の時間が確保できている」は68%にとどまった。家庭学習時間の確保について分析するとともに、両立を意識した取組みが必要と思われる。(△)
(2) 人権を尊重する精神の涵養		(2)	(2)	

府立千里高等学校

	ア 社会貢献活動等に触れることによる豊かな人権感覚の醸成	ア・社会貢献に取り組む卒業生や専門家による講演及び連携協力を推進する。	ア・「様々な場面で豊かな心や人の生き方について考える機会がある」80%以上 [81%] ・「社会貢献活動に関わることは大切だと思う」90%以上 [93%]	ア・JICA との連携により海外での社会貢献活動を体験された方々を招いての講演や、国連職員として活躍された卒業生による座談会、課題研究の中で社会貢献活動を行う企業や経験を積まれた学識など、多くの機会を設けた結果、「様々な場面で豊かな心や人の生き方について考える機会がある」85%、「社会貢献に関わることは大切」94%であった。(◎)
	イ 多様性を尊重する人権教育の推進	イ・HRで外部人材の講演等を活用し、人権学習等を充実させ、人としての在り方生き方を学ぶ道徳教育を推進する。	イ・生徒対象の自己診断アンケートにおいて「人権について学ぶ機会がある」90%以上 [92%] ・教職員の「全体で人権教育に取り組んでいる」70% [56%]	イ・外部講師による人権講演会のほか、独自教材による全学年・HRでの同和問題学習など、人権ホームルームに学校を挙げて取り組んだ。生徒の「人権について学ぶ機会がある」95% (○)、教職員の「学校全体で人権教育に取り組んでいる」86%。(◎)
	ウ 教育相談体制の確立	ウ・定期的に情報共有を図り、不登校等の生徒の把握と対応に組織として取り組む。 ・いじめの未然防止に努め、万一生じた場合は迅速かつ真摯に対応する。 ・研修の充実やスクールカウンセラーとの連携により、不安定な生徒のケアを図る。	ウ・生徒の「悩みに応じてくれる先生がいる」72%以上 [72%] ・生徒の「いじめについて困っていれば真剣に対応してくれる」80%以上 [80%]	ウ・毎週の情報共有から、不登校等の生徒の把握に努め、スクールカウンセラー等の専門家の意見を生かして組織的な対応を行った。また、突発的な生徒からの相談に対しても迅速な連絡・相談のうえ必要なチームを招集し、校内及び保護者と連携して組織的かつ丁寧な対応を心掛けた。「悩みに応じてくれる先生がいる」79% (◎)、「いじめについて真剣に対応してくれる」88%。(◎) 生徒の安心・安全な学校生活のために組織としての対応力をさらに磨きたい。
3 学校の組織力の向上	(1) 学習指導方法の工夫改善	(1)	(1)	
	ア 研究授業・研究協議の実施による授業改善	ア・学校全体として研究授業を行うとともに研究協議を実施し、授業改善のためのPDCAサイクルを回す。	ア・今年度で5回目となる研究授業及び研究協議を実施し、府内に公開する。 ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」80%以上 [82%]「授業を受けて知識や技能が身についた」80%以上 [83%]	ア・府教育センターのパッケージ研修支援を受け、第5回授業研究会を実施、府立学校に公開した。テーマは「深い学びを導き出すためのICTの活用」で、生徒の深い学びに資するICTの活用について、全教職員で取り組むことができた。生徒の授業アンケートでは「授業内容に興味・関心を持つことができた」84% (○)、「知識や技能が身についた」85% (○)の肯定率で、今後も学校全体で授業改善に取り組んでいく。
	イ 新たな教育課題への取り組み	イ・円滑な新指導要領の実施を図る。 ・評価方法の研究を継続し、教科における指導方法・評価について、統一・共有化を進め、評価について生徒・保護者の理解を得る。 ・1人1台端末の活用について、「リディング GIGA ハイスクール研究指定事業」の指定を活かし、さらなる利活用を図る。	イ・生徒の「学習の評価について納得できる」85%以上 [84%] ・生徒「授業でICT機器を使う機会がよくある」90%以上 [90%] ・教職員「ICT機器が授業などで活用されている」95%以上 [98%]	イ・生徒の「学習評価に納得できる」は86% (○)、ICTの活用については、生徒による「授業でICT機器を使う機会がよくある」は95% (◎)、教職員は97% (○)であった。12月の授業研究会を府立学校全体へ授業公開したほか、10月には府立学校のみならず府内中学校にも授業公開週間として案内した。学校全体で新しい教育課題への取り組みを進めることができた。
	(2) 危機管理力の向上	(2)	(2)	
	ア 不測の事態への迅速な対応力の強化	ア・教職員がコミュニケーションを図る機会を効率的に設け、不測の事態にも迅速かつ組織的に対応するチーム力をつける。	ア・「分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」50% [46%] ・「教育活動について日ごろから話し合っている」80%以上 [79%]	ア・教職員の自己評価「分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」は62%に上昇した(◎)一方、「教育活動について日ごろから話し合っている」は76%にとどまった。(△)働き方の効率化を図りつつ分掌・学年を超えての教職員の連携を円滑にする。
	(3) 効果的な情報発信	(3)	(3)	
	ア 本校の特長と魅力の先鋭化と情報発信の強化	ア・本校の特長と魅力を再確認し、校内外に向けて積極的に発信するため、保護者宛のメール等の活用促進およびホームページのさらなる活用を図る。	ア・保護者「学校は教育情報について提供の努力をしている」80%以上 [74%]「千里高校は魅力ある学校といえる」85%以上を維持 [86%]	ア・保護者の「学校は教育情報について提供の努力をしている」は81%に、「魅力ある学校である」は92%に上昇した。こまめなメール配信に努めたためと思われる。ホームページの刷新を年度内には完成する予定である。(◎)
	(4) 働き方改革の推進	(4)	(4)	

府立千里高等学校

ア	生き生きと働ける環境づくり	<p>ア・時間外労働の削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の授業および校務における活用方法を促進する。 ・相談したり助言しあったりできる環境づくりをおこなう。 	<p>ア・時間外労働時間を1割削減する。[528 時間/人]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議のペーパーレス定着 ・ICT を活用した研究授業を公開する。 ・ストレスチェック結果を事業場全体の平均 [98] 以上にする。[101] 	<p>ア・時間外勤務時間は3月28日時点で、406 時間/人 [年度末 528 時間/人] で約 23%の削減。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用については、授業公開、研修の実施のほか「先生のための ICT 教室」をアプリ内に立ち上げ、コンテンツを増やすなどの工夫、会議のペーパーレス、教室使用簿や管理職への緊急連絡フォームなど順調に進めている。(◎) ・ストレスチェック結果は事業場全体の平均 99 に対し、109 であった。(△)
---	---------------	--	--	--